

魔法のプロジェクト2021 活動報告書

報告者氏名: 澤岬 圭祐

所属: 沖縄県立大平特別支援学校

記録日: 令和4年 2月 12日

キーワード: 不登校支援

【対象児の情報】

・学年

高等部2年生

・障害名

知的障害、精神障害

・障害と困難の内容

知的な遅れはそれほど感じない。しかしながら、小・中学校時代には不登校があり、そのことが原因での学習遅滞を感じることはある。昨年度も学校に通学できないことがあり、その傾向は続いている。

・使用した機器

Pad iPhone watch chromebook AIスピーカー Pepper

【活動目的】

・当初のねらい

- ①卒業後や今年度の生徒自身の目標や希望を具体的にする
- ②生活習慣の確立
- ③生活に根ざした学力の定着
- ④学校や支援者とのつながりの形成

・実施期間

令和3年4月～

・実施者

澤岬 圭祐

・実施者と対象児の関係

学級担任

【活動内容と対象児の変化】

対象児の事前の状況

- ・ 高等部から本校へ入学。
- ・ 知的な遅れはそれほど感じない。しかしながら、小・中学校時代には不登校があり、そのことが原因での学習遅滞を感じることはある。
- ・ 昨年度（高等部1年時）にも学校に通学できないことがあり、現在もその傾向は続いている。
- ・ ゲームや YouTube 等を見て過ごすことが多く、不規則な生活になることも多い。
- ・ 緊張したり、「登校しなければ」と思う場合などは夜眠れないこともある。
- ・ 卒業後の進路希望や見通しについては未定。
- ・ 昨年度はオンラインでの学習補償等はあまり行うことができていなかった。
- ・ 一学年上に姉がおり、対象生徒と同じように不登校傾向である。現在は姉の担任とともにオンラインでの学習等を取り組み始めている。

活動の具体的内容

・ オンラインでの学習

沖縄県の新型コロナウイルス感染者数の増加によって、6月から分散登校や休校等が続いている中で学校へ登校できていない状況が続いている。そのため、6月から保護者と連携しながらオンラインでの学習に取り組んでいるが、体調等によって実施状況は数回程度である。内容についてはマイクロビット等を活用したプログラミングやネット教材を活用したタイピング練習等が中心である（図1，2）。



図1. オンライン授業の様子（micro:bitでのプログラミング）



図2. オンライン授業の様子（タイピングゲーム）

・ 遊びを活かした学習



図3. ミニ四駆を題材に学ぶ様子（レース後に車体を比較）

普段の学習に対してのモチベーションがあまり高くないため、「遊びを題材にした学び」をと考え放課後に取り組んだ。対象生徒はプラモデルを作るのが好きだということで、「ミニ四駆」を題材に取り組んだ。ミニ四駆を選んだ理由は、組み立てるだけで終わらずにモーターや電池等の性質を比較しながら実験をするように取り組めると考え題材とした。また、対象生徒だけでなく、仲の良いクラスメイトと競争をしながら車体のスピードの違い等について学習を行った。「電池を変えたらどうなるか?」「モーターは?」等を試行しながら取り組みを進めた(図3)。

・Pepper 等を活用した役割作り

給食週間や月に一回の「琉球料理の日」等での Pepper やポスター作りを行った。この取り組みについても他のクラスメイトとともに行い、オンラインも併用しながらメール等の活用をしながら取り組みを行った(図4)。クラスメイトと談笑しながら取り組むことで、プログラミングや文書作成を1~2時間取り組むことができた。

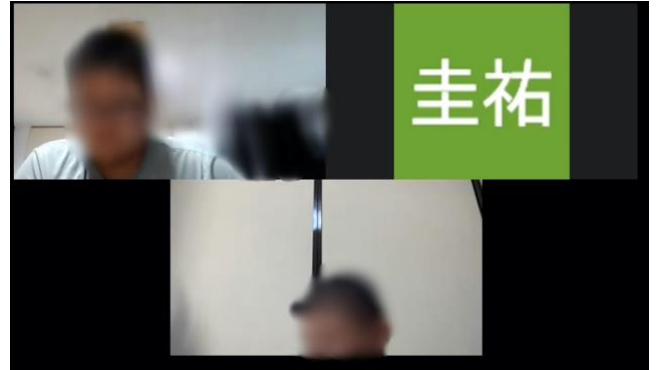


図4. オンライン授業の様子
(話し合いをしながらプログラミングを行う)

・保護者との連携

Microsoft Teams を活用しながら担任と保護者との連携ができるようになっており、生徒の興味関心や家庭での様子等についても教えてくれるようになってきている。また、家庭で生徒が「ドーナツを作りたい」など、学習に活かせるような活動を行うこともある。

・対象児の事後の変化

年度当初はオンラインについても生活リズムが整わないことも多く、取り組むことが困難なことも多かった。しかしながら、保護者や他教師と連携をすることで少しずつ回数を増やすことができるようになってきている。その際に、教師とのマンツーマンでの取り組みではなく、友人も一緒に行ったことで雑談をしながら取り組むことができるようになってきている。

【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

- ①卒業後や今年度の生徒自身の目標や希望を具体的にする。
→卒業後に向けて、在宅就労を検討するなど少しずつ将来のイメージを持つようになってきている。
- ②生活習慣の確立
→まだまだ生活週間の確立には至っていないが、少しずつオンライン授業への参加が増えるようになってきている。
- ③生活に根ざした学力の定着
→家庭でも母親と一緒に料理を作ったり、PC のタイピング練習をしている様子が少しずつ見られるようになってきている。また、学習場面でスマートフォンやタブレットを活用する場面も増えている。
- ④学校や支援者とのつながりの形成
→保護者と Microsoft Teams で連絡をこまめに取りながら生徒の体調の確認や学校行事の確認、課題等の連絡を共有することができるようになってきている。

今回の取り組みにおいて、大きかったのは①保護者との連携、②友人やクラスメイトの存在が挙げられる。まず、「生徒の様子や興味関心」「取り組みの意義の共有」を保護者と共有したことで保護者から言葉かけをしてもらうこともできるようになっている。また、友人と一緒に参加することで取り組みへのハードルを下げられたことが考えられる。

これまでは学校に登校しなければ学習できない状況であったが、Zoom を活用したことで学習を行いやすくなっている。また、卒業後の進路に向けて、オンラインでの就労（及び就労移行支援事業所）をイメージすることができるようになってきている。

・エビデンス（具体的数値など）

今回の取り組みにおいて、出席状況等に大きな改善は見られない。ただ、保護者との話し合いの中で少しずつ家庭でタイピングを行う姿が見られるようになる等、少しずつ学習に向かうような姿が見られるようになっている。

【今後に向けて】

・オンラインでの学習計画の組み立て

生徒の実態を考えると、次年度も取り組みが断続的になる可能性もある。そのため、より詳細な計画を立て取り組む必要があると考えられる。また、今年度のようにクラスメイトと共にオンラインを行う際には、クラスメイトの学習になるように課題設定や内容の検討を行っていく必要があると考えられる。